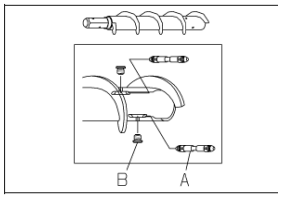
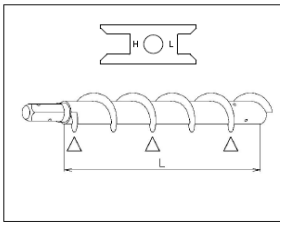
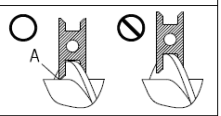
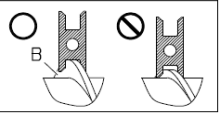
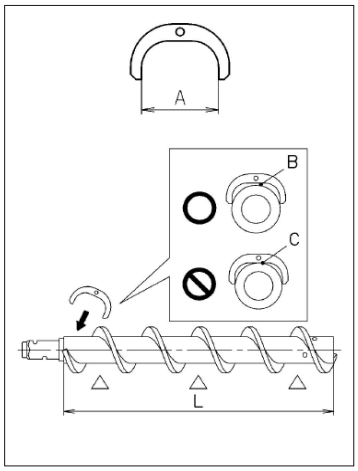
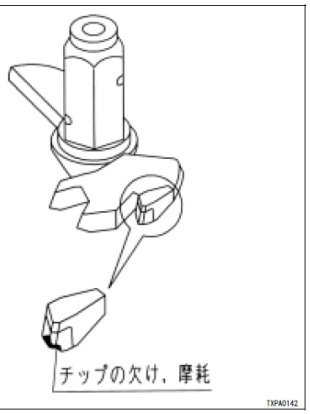
適用範囲		モデル名		SCU-400MG
		仕様		PA9
		適用号機		-
区分	検査箇所	検査項目（条件）	単位	検査基準値
作業装置	オーガー装置	オーガースクリュー羽根高さ摩耗量	mm	40.0～62.0
		オーガースクリューロッド摩耗量	mm	143以上
		オーガーヘッド摩耗量（推奨）	mm	先端ビット硬化肉盛り5.0以上 ビット板厚2.0以上
		オーガーケーシング内径摩耗量	mm	286.0以内 板厚15.0以上
		オーガーケーシングガイドレール摩耗量	mm	37.0以上
		オーガーフレーム上下クリアランス	mm	1.5以内
	圧入機本体	チャック爪摩耗量	mm	可動2.0以上 固定2.0以上
		クランプ爪摩耗量	mm	可動2.0以上 固定2.0以上
		ケーシングチャック爪摩耗量	mm	可動2.0以上 固定1.5以上
		チャック上下しゅう動部クリアランス	mm	1.5以内
		ケーシングチャック上下しゅう動部クリアラ	mm	1.5以内
		チャック回転しゅう動部クリアランス	mm	1.5以内
		マスト前後しゅう動部クリアランス	mm	1.5以内
		マスト旋回しゅう動部クリアランス	mm	1.0以下
		クランプ左右しゅう動部クリアランス	mm	1.0以下
	パワーユニット	作動油の量	－	測定方法参照
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力No1ポンプ	MPa	34.3±0.5
		主回路設定圧力No2ポンプ	MPa	34.3±0.5
		主回路設定圧力No3ポンプ	MPa	39.2±0.5
		主回路設定圧力No4ポンプ	MPa	49.0±0.5
		性能測定条件・油温 (設定モード)	(℃)	(40~60) パワーモード
	油圧シリンダー圧力保持	チャック開閉シリンダー	－	10分後の点灯確認
		クランプ開閉シリンダー	－	10分後の点灯確認
		ケーシングチャック開閉シリンダー	－	10分後の点灯確認
		性能測定条件・油温 （外気温の参考範囲）	(℃)	(40~60) (15~25)
備考	※１:外気温が参考範囲を下回る場合、基準値を満たさないことがあります。			

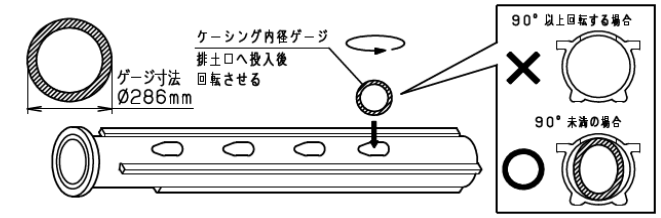
技研製作所

項目	測定方法
オーガスクリュー羽根	専用付属測定ゲージ使用 **オーガスクリュー点検** **⚠危険　点検の結果、欠陥があるものや摩耗状態が１箇所でも基準値を超えるものは使用しないこと。** **・ジョイントピン、ジョイントロックボルトの点検** ジョイントピン（A）に欠陥(曲がり・クラック・キズ)がないか確認してください。 ジョイントロックボルト（B）取付け座面が平面で、異物が入り込んでないか確認してください。また、ネジ山の破損がないか確認してください。  **・オーガスクリュー羽根の点検** 摩耗限界ゲージを使用し、オーガスクリュー羽根の補修状態および摩耗状態を確認します。 ゲージはスクリューの種類と確認内容によって、羽根にセットする部分が異なります。図の位置の刻印を確認してください。 オーガスクリューの３箇所で確認を行います。（右図△位置）  **刻印**：**確認内容** **H**：スクリュー外径φ265 の高さ限界（補修状態）を確認します。A のように、スクリュー軸とゲージ先端が接触する状態は使用可能です。スクリュー軸とゲージ先端が離れている状態では補修し直してください。ケーシングに挿入できません。  **L**：スクリュー外径φ265 の低さ限界（摩耗による使用限界）を確認します。B のように、スクリュー軸とゲージ先端が離れている状態は使用可能です。スクリュー軸とゲージ先端が接触する状態では使用を中止してください。オーガスクリューの交換が必要です。 

オーガスクリューロッド	専用付属測定ゲージ使用 **・オーガスクリュー軸の点検** オーガ軸ゲージを使用し、オーガスクリュー軸の摩耗状態を確認します。 ゲージはスクリューの種類によりサイズが異なります。 スクリュー外径φ265 / A 寸法：143mm ゲージ A 部をオーガスクリュー軸にセットします。 オーガスクリューの３箇所で確認を行います。 （右図△位置） B のように、スクリュー軸とゲージ先端が離れている状態は使用可能です。 C のように、スクリュー軸とゲージ先端が接触する状態では使用を中止してください。オーガスクリューの交換が必要です。 
オーガヘッド	専用付属測定ゲージ使用 **オーガヘッド点検** オーガヘッドに、図のようなチップの欠け及び摩耗がある場合は交換します。 

オーガケーシング	専用付属測定ゲージ使用

ケーシング点検

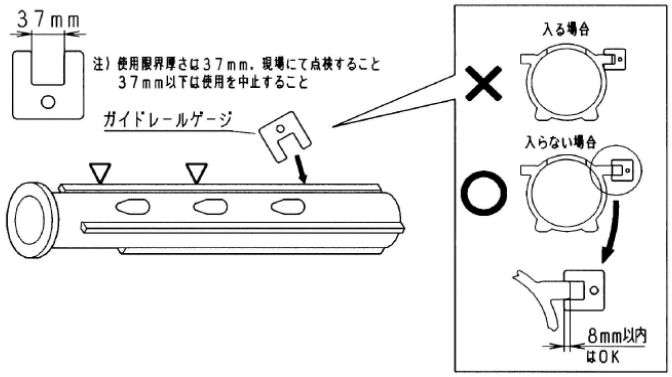


図のように、ケーシング内径ゲージを使用し、ケーシングの摩耗状況を確認します。

ゲージを全てのケーシング排土口より挿入し、回転範囲が９０° 未満であれば使用可能です。

⚠危険　回転範囲が９０° 以上の場合（ケーシング内径がゲージ直径より大きい場合）は直ちに使用を中止すること。

⚠危険　ケーシングパイプの厚みが１５mm以下となった場合、直ちに使用を中止すること。

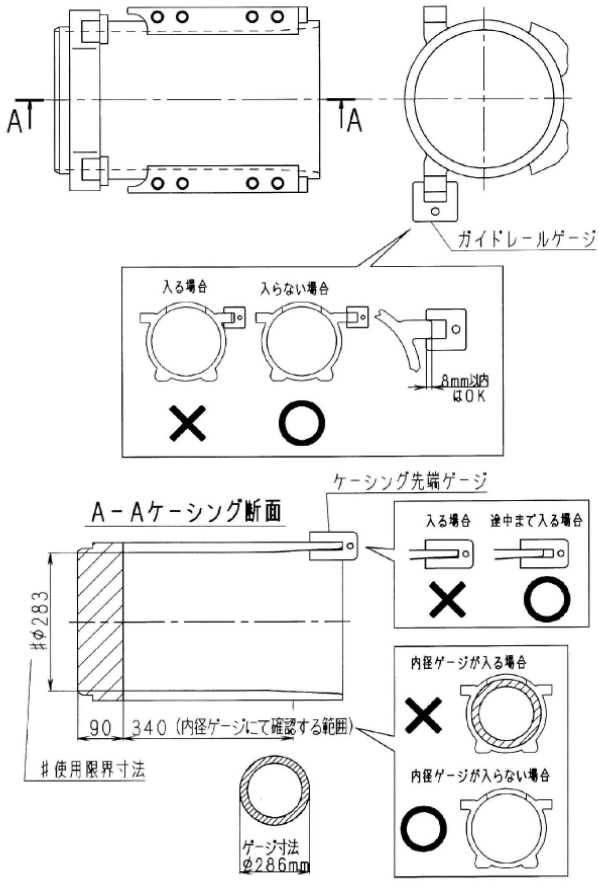


図のように、ガイドレールゲージを使用し、ガイドレールの厚さを確認します。

各ケーシングを、全長にわたって最低３ヶ所は測定し、ゲージが入らないか、入っても 8mm 以内なら使用可能です。

⚠危険　ゲージが入る場合（ガイドレール厚さが３７mm以下の場合）は直ちに使用を中止すること。

下端ケーシング点検



※ガイドレール及び、ケーシング先端の摩耗が基準以上に摩耗している場合は当社指定工場にて補修出来ます。但しハッチング部、#寸法を超える場合や、内径ゲージの基準以上に摩耗している場合は新品に交換します。

作動油の量	